

125th IEEE Region 10 Student Congress 2009: 報告書

2009年7月16-19日,シンガポールにて

2009年7月16日から19日の間、シンガポールにて125周年記念IEEE Region 10 Student Congress 2009が開かれた。日本からは計9名の学生がそれぞれの大学のSBを代表して参加した。

2009年7月16日(木):

まず、アイスブレイキングとして自己紹介を行い、緊張や時差ぼけを和らげられた。ランチをはさみ、”Green power / sustainable development”のワークショップを行った。7人のチームに別れ、田舎でも適応できる持続可能な技術について話し合った。私たちのチームは、バイオガスについて話し合い、最後に5枚の論文としてまとめた。異分野から多くの意見が出たため、まとめるのに苦労した。

その後、ティータイムをはさんで、GoogleやIBM、MicrosoftやShellなどの活動紹介を聴講し、SB(Student Branch)と積極的に連携して活動を行っているということを知った。

フォーマルディナーでは、NUS(National University Singapore)のスタッフ紹介や125周年IEEE誕生会、表彰式が行われた。一日目は、さまざまなセクションの方と意見を交わす時間がたくさんとられていたので、お互いを知ることができ、積極的なコミュニケーションをとることができた。

2009年7月17日(金):

早朝から会場までバスで移動し、まずR10の歴史、GINIの活動紹介、IEEEについてなどの発表を聴講し、Non-USが膨大に増えてR10が全リージョンの中で最大になったことなどを学んだ。次に、SACの目的のゴールについて聴講し、ティータイムをはさんで、リーダーシップトークを聴講し、コミュニケーション、ネゴシエーション、フィードバック、オーガナイゼーションなどのキーワードについて討論し、ケーススタディーを行った。お昼をはさんで、”Green Develop”を聴講し、NUSで実施されているリサイクルや分別の実際を聞いた。また、初日にチームごとに作成した”Green Power”の論文について上位3チームが表彰され、プレゼンテーションされた。そして、”Humanitarian Workshop”が開かれた。

本日最後のイベントとして、”Tour of Singapore”があり、目的地にあわせて各グループに分かれ、NUSのスタッフがシンガポールの町を案内してくださり、そこでディナーをとった。

2009年7月18日(土):

まず、R1からR10の紹介とそれぞれのプレゼンテーションが行われた。国や文化の紹介だけでなく、リージョンの違いや特徴などの紹介もされた。続いて、各ランチでの活動が

紹介された。ティータイムをはさみながら、各ランチでのポスターセッションが行われた。日本チームは、名古屋大学、静岡大学、北海道大学、東京電気大学、東京工業大学が参加した。大学の紹介からSBの活動まで、幅広く紹介されていた。

ティータイムをはさんで、“Discussion Forum”が開催された。ここでは、一日目の“Green Power”の7人メンバーが集まり、SBの存在目的「あなたはなぜいるのか」について討論し、全チームがステージで結論を発表した。お昼をとってから、“Break out session”に参加した。テーマ別に別れ、私は“First Year Member Experience 2010 strategy & plan”というセッションに参加し、1年目でやめてしまうIEEE会員が多い原因について考え、IEEE会員のメリットとデメリットを金銭面や活動内容という広い視点から考え討論した。

最後の夜には、“DJ Party”が開かれた。各国から出し物やお国紹介を行った。私たちの日本チームは国技である相撲をデモンストレーションした。

2009年7月19日(日):

本日最終日は、まず表彰式が行われた。具体的には、各SBでのポスターセッション、“Green Power”、NUSスタッフなどに対する表彰であった。その後、“Closing ceremony”が始まり、一人ひとりが持ち寄ったプレゼントを交換した。特にお世話になった方には、個人的にプレゼントや連絡先を交換していた。最後に、参加した各教授から、SBへのアドバイスとメッセージをいただいた。

午後は、日本のチームで集まり、飛行機の時間までシンガポールを観光してから帰国した。

全体を通して:

名古屋セクションに属する静岡大学のSBは、昨年キックオフしたばかりだったので、今回のR10 Congressに参加して、これから私たちがすべき活動について大きく3つ学んだ。一つ目は、まず英語（または日本語）で自分の意思を伝えるコミュニケーションの重要性を学んだ。二つ目は、研究者や学生は、プライドにとらわれずに議論すべきであることを学んだ。3つ目に、SBのアクティビティを増やし、IEEE会員を増やして盛り上げることの重要性を学んだ。今後は、ここで得た経験を少しでも役に立てるようにメンバーに伝えていくとともに、たとえば英語を使って討論するなどの活動を提案していきたいと考えている。

静岡大学大学院

工学研究科 電気電子工学専攻 修士2年

里吉 一浩 (SATOYOSHI Kazuhiro)

Mail: f0830101@ipc.shizuoka.ac.jp